

泊発電所3号機の概要など

1. 泊発電所3号機の概要

所在地：北海道古宇郡泊村大字堀株村
原子炉型式：軽水減速・軽水冷却・加圧水型(PWR)
定格電気出力：91万2千kW
燃料の種類：低濃縮ウラン
着工：2003年11月21日
営業運転開始：2009年12月22日

2. 主要な経緯

1996年10月22日：環境影響調査開始について、道、地元4ヶ町村に申し入れ
1998年7月29日：3号機増設について道、4ヶ町村に申し入れ
2000年10月20日：第144回電源開発調整審議会上程
2000年11月6日：電源開発基本計画に組み入れ
2000年11月15日：原子炉設置変更許可申請
2001年3月27日：建設準備工事開始
2003年7月2日：原子炉設置変更許可
2003年11月21日：着工(第1回工事計画認可)
2008年10月3、30日：新燃料搬入
2009年1月25日：試運転開始(燃料装荷)
2009年3月3日：初臨界到達
2009年3月20日：試運転段階での発電開始(初並列)
2009年7月15日：電気出力100%到達
2009年12月22日：営業運転開始

3. 泊発電所3号機の特徴

発電所の運転をコントロールする中央制御室に、「新型中央制御盤」を採用。運転操作・監視のしやすさが特徴で、発電所の運転状況が一目で見渡せる大型表示装置や、運転員が座ったままで操作・監視ができる集中操作監視盤など、ヒューマンエラーの防止に配慮したシステム。

発電効率を高めるために、「高効率タービン」を採用。

建屋の一部に周辺の景観に調和する色彩を採用。

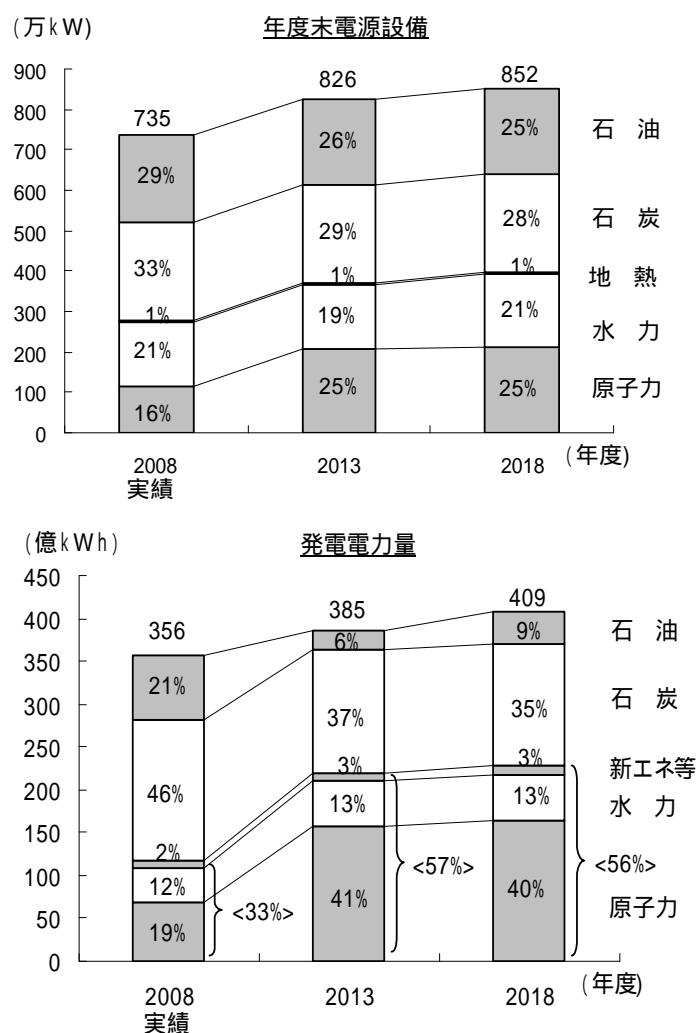
【参考1】

泊発電所3号機の営業運転開始により、国内で稼働中の商業用原子力発電設備は54基、うち加圧水型軽水炉（PWR）は24基となります。

国内の原子力発電所の営業運転開始は、北陸電力・志賀原子力発電所2号機（2006年3月15日）以来、加圧水型軽水炉（PWR）としては、九州電力・玄海原子力発電所4号機（1997年7月25日）以来となります。

【参考2】

[エネルギー別構成比]



- (注) 1. 他社受電分を含む。
 2. 発電電力量の2013年度および2018年度の石油には天然ガス（2009年11月より苫小牧発電所1号機の発電用燃料の一部として導入）を含む。
 3. 新エネルギーからの購入電力については、安定した供給が期待できないことから「年度末電源設備」には見込まず、「発電電力量」にのみ織り込んでいる。
 4. 新エネルギーには地熱、廃棄物発電を含む。
 5. < >内はゼロ・エミッション電源の比率を示す。

以上